



小網代通信

発行：小網代ヨットクラブ
〒238-0225
神奈川県三浦市三崎町小網代
1385-18
編集：広報委員会
編集長：里吉美恵子
連絡先：office@koaziroyc.jp

Koaziro Yacht Club

2026年 1月号 VOL-331

2026. 1.10 発行

今月の内容

	ページ
2026年 年頭のご挨拶	(KYC 会長 高橋 尚之) 1
連絡事項	(編集委員) 1
クラブについての通信記事より抜粋	(KYC 会長 高橋 尚之) 2

今後のイベント予定

1月 KFR	：1月 18日(日)	Gコース (スタート予告信号 9:25 タイムリミット 12:00)
2025KFR 表彰式/新年会	：1月 18日(日)	クラブハウス 2階 13:00～(レース中止の場合は、12:30 に変更)
1月 総務委員会	：1月 19日(月)	19:00～ ハイブリッド(品川でリアル会議と Zoom 会議)で実施

2026年 年頭のご挨拶

小網代ヨットクラブ 会長 高橋尚之

皆様あけましておめでとうございます。

本年3月は 神奈川県横須賀土木事務所長宛てに昨夏小網代ヨットクラブが提出した「都市計画道路西海岸線(仮称)小網代大橋建設計画に関する要望書」への県土木からの回答約束期限にあたります。

「橋」はこの先 20 年の小網代ヨットクラブのあり方に重大な影響を与える変化の元。その対応の年々の始まり 2026 年なのあります。20 年前の 2006 年 6 月 11 日 日曜日午前 雨天 玄関ホールでテープカットしたクラブハウスは今年 6 月 10 日で満 20 歳です。長いようで短い 20 年。20 年後小網代大橋のたもとの小網代ヨットクラブをどんなヨット乗りが、どう舵取りしているのか? 正月の夢リクエストできるなら見てみたいものです。

長くなりますが クラブハウス誕生のいきさつが 小網代通信 2004 年 9 月号、2017 年 1 月号にありますので転載します。2 ページ目に転載していますのでご覧ください。また、過去の通信から KYC 設立過程が理解できます是非お読みください。

連絡事項

- 1月 18日(日) KFR と 2025 年度 KFR 表彰式 & 新年会 開催予定
 - ・場所： クラブハウス 2 階サロン
 - ・時間： 13 時～ (レースが中止になった場合、12 時 30 分に変更)
 - ・会費： お一人 1,000 円
 - ・レース委員会主催につき、レース参加者以外の参加はレース委員会にご確認ください。

問い合わせ先：KYC レース委員会 kfr_iinkai@koaziroyc.jp

- KYC2025 年度定時総会を下記の日程で開催しますので、代表者ご出席の調整をお願いいたします。

- ・日時： 2 月 24 日(火) 19:00～21:00
(小網代フリート総会を、同会場にて 18:30～18:50 に開催します)
- ・場所： 三田 駐健保会館 4 階大会議室
- ・総会資料は 1 月末に郵送いたします。出欠等の書類返送は、2 月 10 日までです。ご協力よろしくお願いします。



クラブについての通信記事より抜粋

KYC 会長 高橋 尚之

クラブハウス建設に進展

(小網代通信 2004 年 9 月号 馬渡 健治 会長の報告 一部省略転載)

漁協予定地の購入を決定・クラブハウス小委員会で具体案の検討開始

KOC では会長を中心にみうら漁業組合小網代支所（旧小網代漁協）と新たな KOC と漁協の関係作りについて協議を続けているが、9 月に行われた協議会で、みうら漁協がクラブハウスの建設予定地としている現在漁具倉庫並びに宿泊用住居のある土地を国から購入する事を決定したことが明らかとなった。この土地は国有地で大蔵省の名義で登記されているが、小網代漁協で長年借地契約を行い漁具倉庫等に使用していた、今回の KOC クラブハウス建造についての協議の結果、みうら漁協（本部）として購入しその一部約 77 坪をクラブハウス建設に使用する案がみうら漁協（本部）理事会で 9 月 10 日に承認された。漁協との協議の中でクラブハウスの建設資金は 3 年間の未払い金を引き当てる案が最有力となっているが、その金額でどの程度の施設が出来るかはまだ明らかになっていない。漁協からも KOC はどの程度の規模のクラブハウスを考えているのか提示するよう求められたので拡大総務委員会で検討の結果クラブハウス小委員会（委員長：古屋副会長—ネプチーン）を再開し至急検討することを決定した。それを受けクラブハウス小委員会が開催されクラブハウス内の必要施設等についての討議が開始された。そのほかの課題について、テンダー置き場は漁協から近く申請書が出される運びであり又、水汲み桟橋へのポンツーンの設置についても小網代支所内で調整を開始することとなるなどいろいろな課題が徐々にではあるが具体的に進みだしてきている。（以上転載 1）

（注）KOC は小網代オーナークラブの略。クラブハウス完成とともにクラブ名を小網代ヨットクラブとし、KYC と表記している。

10 年を振り返って

(小網代通信 2017 年 1 月号 馬渡 健治元会長の記事 一部省略転載)

クラブハウスができてから 10 年、今年はその記念パーティも行われた。この間クラブハウス委員会を中心に秩序良く運営が行われ、まさに KYC の魂の入ったクラブハウスになっていることは本当に素晴らしい、この建設にかかわった一人として感無量であった。私が会長を務めたのは 2004、5、6 年の 3 年間である。この間の組合との交渉などについて少し書いてみたい。はじめに行なったことは三浦漁業協同組合との対話である。組合との間で定期的に話し合いを行うこととし、毎月会合を持った。また私自身はそれ以外の日にも三崎の組合本部事務所や小網代支所の支部長、実行委員長（以前単協時代の組合長）をあしらげ訪問した。休日では組合事務所は閉まっており、また支部長、実行委員長も休みなので、平日に訪問した。こうして対話を重ねてゆくうちに漁協側の本音が見えてきた。話がさかのぼるが平成 10 年（1998 年）に港でのレジャー艇保管に関する三省庁通達が出され、ほぼ同時期に「水面管理者ではない漁業組合が係船料を取ることは違法」という通達も出された、行政方針が大きく変化した年であった。これを受け今北会長は組合に交渉し、桟橋への水道や電気の設置を実現された。しかし、その後漁協の態度は元に戻った感があったので、次の難波江会長時代に組合への支払金を 1/2 とし半額を留保することとした。この方針はその次の三浦会長時代も継続されたため、組合側は事態解決策を色々考えたようである。そういう背景の中で前記の対話が開始されたわけで、そしてラッキーなことに組合が国から借りていた土地（クラブハウスの場所と真珠組合の場所）が払い下げされることになり、「そこにクラブで留保していた資金でクラブハウスを建てる」という案が煮詰まってきた。

ネプチーンの古屋オーナーにアドバイサー役として副会長にご就任いただき、次期会長候補の飯島副会長とのトリオで会員の理解を得るために努めた。両副会長のご尽力のおかげで、ほぼ全員一致賛同を得ることができ、組合との交渉もクラブの希望を十分取り入れた状態で決着をつけることができた。まさに団結の力である。できることは積極的に参加する協力の心、そして団結力、この良き KYC の伝統がクラブハウス実現の源であり、今後その力がますます強化されるベースとしてクラブハウスが役に立っていることは誠にうれしい次第である。（以上転載 2）

20 年前のクラブハウス誕生にかかわった先輩諸氏の大事への処し方を
チャート代わりに、「橋」に処していきたいと思います。

皆様の参加、ご協力をお願いいたします。

会員専用 HP の
「小網代通信バックナンバー」
で全文が読めます